

過去で紐解く現代の謎

— 謎解きをマザーグースで —

木田 裕美子

Mother Goose Gives Us a Clue to a Mystery

KIDA, Yumiko

Abstract

Nobody knows exactly when and where Mother Goose was born. But Mother Goose has been handed down for centuries by mouth. And then in the 18th century it was collected and published with pictures, which surely make Mother Goose a common knowledge among people. In English-speaking culture, people use Mother Goose to give readers or audience a clue to understand what they really mean.

This paper will illustrate where Mother Goose is used in some films and how and what Mother Goose suggests to modern people.

Keywords: Lullaby, Shakespeare, relations between parents and their children

はじめに

子ども部屋の唄として知られるマザーグースは、英語文化圏においては子どもと大人の共有財産である。子どもが幼い頃には、親、祖父母、子守りなどの大人が歌ってきかせ、子どもはその歌われた周囲の環境や状況とともに唄を覚えていく。言葉を口移しで覚えるように、唄も自分で歌えるようになる。しかし、日常使う言葉と違い、マザーグースはある時期を過ぎると子どもに歌って聞かせる機会が少なくなる。マザーグースを耳にし、口にする期間は、誕生から小学生になる7歳くらいまでであろう。人生の極初期の間に埋め込まれたマザーグースの唄の多くはその起源が定かではないほど古い。また、口伝で歌われたため、使われている語も一様ではない。18世紀にニューベリーが子ども部屋の唄を出版し、1950年にはオーピ夫妻が編集したことで、共通の元唄らしいものが見られるようになった。

本稿では、映像の世界で古くからの口伝であるマザーグースの唄が紐解く現代の謎や映画やドラマの製作者が伝えたいことを探るものである。

マザーグースが登場するテレビドラマと映画

マザーグースの唄と、その唄がそのまま利用された映画やテレビドラマ、その唄を連想させる映画やテレビドラマは次の通り。

- 1) There was an old woman who lived in a shoe
 - ・『Bones 骨は語る』シリーズ3-12
 - 「悲しき子守唄 (The baby in the bough)」
- 2) Hush a baby, don't say a word 子守唄
 - ・『リンリー警部の事件簿』シリーズ2 5,6話
 - 「正義の声(A cry for justice)」
 - ・『チャームド 魔女3人姉妹』
 - ・『ウェイクングザデッド 迷宮事件特捜班』

「息子は悪くない (A simple sacrifice)」

- 3) Rock-a-by baby, on the tree top 子守唄

- ・『NCIS ネイビー犯罪捜査班』シリーズ3-11
- ・『Bones 骨は語る』シリーズ3-12

- 4) Twinkle, twinkle, little star

- ・『ジャーニーマン』 「破られた掟 (Emily)」

- 5) Incey, wincy spider, went up the water spout

- ・『ゴースト 天国からのささやき』
- ・『多重人格シビルの記憶』2007年 米

- 6) Ring-a-ring o' roses

- ・『CSI 科学捜査班ニューヨーク』シリーズ4-12

「ネヴァーランドの悲劇 (Happily never after)」

- ・『多重人格シビルの記憶』

- 7) How many miles to Babylon?

- ・『スターダスト』2007年 米

7本のテレビドラマ、2本の映画で使われたマザーグース7篇の元唄は次のとおり。

There was an old woman で始まる唄は、数多い。中でも、「靴のお家のおばあさん」で知られる唄は最もよく知られている。

There was an old woman

Who lived in a shoe

She had so many children

That she didn't know what to do.

She gave them some broth without bread

And whipped them and send them to bed.

唄の内容から多くの絵本作家は、靴の形の家とその周囲で遊ぶ多くの子どもとおばあさんを描いている。絵本に描かれている子どもは、幼い子どもたちなので、おばあさんの年齢がどのくらいなのかは不明である。

次に、子ども部屋の唄の中で、生まれたばかりの赤ん坊がまず耳にし、また、大人が歌って聞かせるのは、子守唄であろう。数ある中でも次の二つの子守唄がよく歌われる。

Rock- a-bye baby on the treetop
 When the wind blows
 Cradle will rock
 When the bough breaks
 The cradle will fall
 And down came the baby and cradle all

1行目の Rock は、「揺れる、激しく揺さぶる、～に動揺を与える」を意味する動詞である。日本でも、田植えの時期に子どもを籠に入れ、田の畦において大人が作業をする風景が見られ、アメリカの建国初期の頃にも、原住民が木の枝に揺り籠を吊るし、風に子守をさせていた光景が見られたとのことである。子どもをあやす子守唄であるが、大風が吹き、もし大枝が折れると、吊るされた籠にいる赤ちゃんが危険な状態にあることも暗示する唄である。

次の子守唄は、子どもをお土産でなだめようとしているアメリカで採集された唄である。

Hush a-bye baby, don't say a word
 Papa's going to buy you a mocking bird
 If the mocking bird won't sing
 Papa's going to buy you a diamond ring.
 If the diamond ring turns to brass,
 Papa's going to buy you a looking glass.
 If the looking-glass gets broke,
 Papa's going to buy you a billy-goat.
 If that billy-goat runs away,
 Papa's going to buy you another tomorrow.

空に輝く星を歌ったものは次のとおり。

Twinkle, twinkle, little star
 How I wonder what you are!
 Up above the world so high,
 Like a diamond in the sky

作者不明の唄が多いマザーグースの中でも、作者がわかっている5連からなる「きらきら星」の第1連目。作者は、Jane Taylor (1783-1824)。タイトルも、The Star である。

月に関連する唄には、子どもと月が見詰め合う唄もある。

I see the moon,
 And the moon sees me;
 God bless the moon,
 And God bless me.

次の唄は、遊び唄の「ロンドン橋」と同じ遊び唄の類の「バビロンへ何マイル」。

How many miles to Babylon?
 Three scores miles and ten.
 Can I get there by candle-light?
 Yes, and back again.
 If your heels are nimble and light,
 You may get there by candle-light.

1行目の、Babylon は、Babyland が変化したものと考えられている。70マイル離れた場所への往復には、一本の蠟

燭の炎が点っている間に往復できるのであろうか。幼児時代への邂逅や、見知らぬ土地への憧れを表しているであろう。

Incey, wincy a spider went up the water spout
 Down came the rain, and the spider washed away
 Up the sun came and dried them all
 Incey, wincy spider went up the spout again.

小さな蜘蛛が、雨樋をよじ登って行く。そこに、雨が降りだし、小さな蜘蛛は、少しの雨でも流されてしまうのである。しかし、流されても、太陽が顔を出すとまた登り始める。指遊びの唄である。

映画やテレビドラマの中のマザーグース

・『NCIS ネイビー捜査班』シーズン3-11

海軍内やその関係者に起きた事件を捜査する NCIS のテレビシリーズ。軍の基地内でテレビドラマの撮影が行われている最中に、軍曹と交際していた女優が殺害される。次は、取調室にいる容疑者を窓越しに観察する、捜査官のトニーとジヴァの会話。Z はジヴァ、T はトニーである。

Z: When is Gibbs planning to start interrogation?

T: It is one of his techniques.

Z: Really?

T: Keeps the guy alone in the cold, dim-lit room and then just the guy starts to go out, he bursts right into the room. It's called "Rock the baby" In a few moments, the door'll fly open. Next, Gibbs bursts right into the room. The big-bang marine jumps like a little girl.

容疑者を動揺させ、「落とす」心理作戦を、"Rock-a-bye, baby" のイメージを利用している。ただ、イラン人のジヴァは、英語やアメリカ文化についての細かい知識はないので、彼女はトニーの意図するイメージをつかんでないようである。この会話の後、ギブスが突然二人のいる部屋の扉を開け、ギクッと驚いたのは、トニーだった。

・『Bones 骨は語る』3-12 「悲しき子守唄」

ジェファソニアン博物館に勤務する法人類学者のテンペランス・ブレナンと FBI 捜査官ブースの2人を中心に骨になってしまった死体の死因を解明し謎解きをするテレビドラマである。

このエピソードの原題は、A baby in the bough。ある日、車と共に黒こげになった人骨が発見され、ブレナンとブースは現場に赴く。ブレナンが黒こげになった骨から年齢、性別などを判断していると、どこからともなく赤ん坊の泣き声。見上げると、木の枝にベビーシートがひっかかっている。中には赤ちゃん。木からおろし、オムツを替える時に、赤ちゃんが証拠品の鍵を飲み込んでしまう。母親の鞆から取り出した鍵を赤ちゃんの横においてしまったのである。証拠品を飲み込んだ赤ちゃん（後に名前がアンディだと判明）を連れて、ジェファソニアン博物館に戻ってくると、金属探知機で赤ちゃんの体内にあるかどうかを確認

し、鍵が排泄されるまでブレナンが保護することとなる。博物館での同僚、アンジェラとホッジズは、恋仲。赤ん坊のアンディを見ているうちに、何人子どもを持つかとの話題になる。Aは、アンジェラ、Hはホッジズ、Cは彼らの上司のカミールである。

アンジェラがアンディを抱きながら。

A: I love to be used to it. I like to have a million.

H: Cool. What did she mean by million? Two?

後に、アンジェラとカミールの会話。

C: How many? Exactly?

A: Excuse me?

C: Kids. A million seems unpractical.

A: I don't know.

C: You sound like *an old champ in a shoe*.

カミールは、アンジェラの大げさな言い回しから「靴の家のおばあさん」を引き合いにだしたのである。また、木の枝にベビーシートごと飛ばされた赤ちゃんの状態やこのエピソードのタイトルからも、“Rock-a-bye, baby, on the tree top”を連想でき、しかも、この赤ちゃんは危険な状態にあることを示唆している。このアンディは、母親からの遺伝性の病を患っていた。亡くなった母親が指定した里親に引き取られる際には、カミールの手配で優秀な小児科医の治療を受けることになり、ブレナンも安心する。

・『Waking the Dead』1-7 「息子は悪くない」

イギリス版、「コールドケース（未解決難事件）」である。ボイド警部が率いるCID（犯罪捜査班）は、精神判定医を含む5人のチームである。エピソードは、夫と息子の友人を殺害した罪で25年間投獄されている女性アニー・キールが無実であると警察に手紙が届いた2000年から始まる。警察は、捜査を再開後、アニー自身に釈放される可能性を話す。彼女は、釈放の可能性を喜ぼうとせず、獄中で、子守唄“*Papa's gonna buy you a mocking bird*”を歌う。彼女の息子サムは、アニーが刑に服した頃に里子にだされ、後に、名前をアレックスと変え、教師となり妻と息子がいる。彼は、アニーが母親である事を恥に思い自分の妻に告げずにいる。彼女は、事件の夜、夢遊病者のサムがナイフを持って現場に立っているのを見て、息子が殺人を犯したと誤解し、全ての罪をかぶって服役していたのである。真犯人が逮捕され、無実が明らかになった時、初めて、親子は再会し、アレックスは、自分の妻とも向き合うことができた。子守唄の中で、次々と買い換える言葉は、親が身代わりになること、子どもの良いように、喜ぶようにとつくす親の気持ちを表している。

・『チャームド 魔女3人姉妹』は、サンフランシスコ在住のハリウェル家の魔女3姉妹が悪魔を退治するテレビドラマ。3人揃うと、最強の力を発揮する。このエピソードでは、次女パイパーと白の守護神レオの息子ワイアットの子守をしている妹ペイジが次のように“*papa's going to buy you a mocking bird*”の言葉を入れ換えて歌っている。

Mama is going to buy you a mocking pie,

If that pie doesn't taste real good

Mama is going to buy you another kind of food

If that food doesn't fill your tummy

ペイジは、長女のブルーが亡くなった後登場した異父姉妹の4女。新たに最強の魔女3人が結成された。彼女は、恵まれない幼少時を過ごしたために、元唄の言葉を知らないのか、或いは、歌手としての経歴を持つため、上記のように、言葉を入れ替えて歌ったようである。マザーグースの伝承の一つ方法が示され、マザーグースが時代と場所により自由に変化する柔軟さを表す場面でもある。

・『リンリー警部』「正義の声」

アメリカ人作家の作品をBBCがテレビドラマ化したもの。伯爵の称号を持つリンリー警部と彼の部下バーバラの活躍を描くイギリスの刑事もののテレビシリーズである。

このエピソード（“A Cry for Justice”）では、イギリスのオックスフォードのアパートでモラグという名の女性が殺害される。たまたまオックスフォードで講習を受け、現場近くにいたバーバラは、管轄外ではあるが捜査に加担する。捜査が進むにつれ、複雑に絡みあう人間関係が浮かびあがる。ホームレスを助けるCrucible Clubが経営危機に陥る。経営者夫婦は、募金で集まったお金を搾取すると共に、子どもを保護し、里親を紹介すると称しながら、実は人身売買（human trafficking）をし、手数料を受け取っていた。この夫婦には子どもがなく、養子をとることも考えたが、調査が入ると詐欺が暴露されるので、できない。殺害されたモラグは、自分の息子を買った過去があり、この夫婦に赤ん坊の売買を勧めたのである。モラグに赤ん坊を取り上げられた若い女性シェリーは、自分の赤ん坊を取り戻そうと誤ってモラグを殺し、既に売り渡されていた赤ん坊を誘拐する。リンリー警部は、ビルの屋上に追い詰められたシェリーを説得し、無事に保護する。

ビルの屋上に追い詰められたシェリーとリンリー警部の間で交わされた会話の合間にシェリーは、子守唄を歌う。Lはリンリー警部、Sはシェリー。Mは、シェリーの娘を買った女性マージョリ。

S: Keep away from me. She's mine.

M: What is she talking about?

S: Keep away from me.

L: It's all right.

S: She's mine.

L: What's her name?

S: Nicola. I want to call her Nicola.

L: It's a good name. Can I hold her, please?

S: No. Nobody is taking her off me again. Nobody.

(The baby starts to cry.)

S: Sh. It's alright. It's alright.

(The baby stops crying.)

See? She knows my voice. She knows I'm her mother.

L: She does.

S: She told I couldn't look after a baby. I can.

Hush little baby, don't say a word

L: Who told you that, Sherry?

S: She did. Morag.

Mama's gonna buy you a mocking bird.

L: Anyone can see that you would be a wonderful mother.

S: Never be gone apart again. No ever.

初めての子どもの誕生を控え、親になる不安を感じているリンリー警部は、シェリーに子どもを抱く感じを尋ねる。シェリーの答えは、It's like the best feeling in the world.

里子制度が子どもの保護を謳っている陰で行われた私利私欲を求める人身売買を咎める内容である。子供を売るモラグと、母性に目覚めたシェリー、母親になりたくてもなれない女性達。母親になれないが故に他人の子供を金銭で買う女性達。その彼女たち全員が正義の裁きを受けることになる。また、子供の売買に伴う貧困について、モラグの実子の里親は、リンリー警部に、子供がいるかどうかを尋ね、You can't imagine: having a child and no money. と経済が伴わない子育てのつらさを訴える。

子どもの幸せは、経済的な裏づけがあればよいと考えたもう一人の母親が、テレビドラマ『ゴースト 天国からのささやき』の一話に取り上げられた。

・『ゴースト』の原題は、Ghost Whisperer。主人公メリンダは、幼い頃から、死者の霊を見、言葉を交わすことができた。彼女は、パラメディックのジムと結婚し、骨董屋を営む。骨董品の売買をしながら、この世に未練を残して亡くなった人たちの思いを生者に伝え、死者を光の向こうへと導く毎日を送っている。

このエピソードでは、幼い頃、貧しい生活を惨めに感じていたファッションデザイナーのクリスティーンは、息子ダニエルの幸せは、経済的に豊かな生活にあると思込んでいた。ある日、息子と野球の観戦に行くと約束するが、ちょうど仕事の電話がはいる、試合時間に間に合わない。怒ったダニエルは、車の鍵を手にとり、自分で車を運転した。車道に出た途端、車が衝突し、死亡する。クリスティーンは、その後、夫との仲を修復するためにも女の子を設けるが、結局夫とは離婚し、ますます仕事にのめりこんでいく。そんな母親を心配してダニエルは、霊となってまわりつく。仕事場所の都合と奇妙な事が続く家から引越すために家財を売り払う彼女の家にメリンダが赴くと、ダニエルの霊と遭遇する。彼の妹ジェシーの子守が怪我をした時、メリンダは、代わって子守を務める。ジェシーのベッドの上の赤ちゃんメリーのメロディは、Rock-a-bye baby。危険な状況を暗示する子守唄である。ジェシーの子守りが階段を転がり落ちたのは、このメロディが流れた直後である。メリンダがジェシーをあやす唄は、「小さな蜘蛛さん」である。その唄で「雨降って地固まる」を暗示したのである。ダニエルの揺さぶりとメリンダの仲介によって、ダニ

エルは、母親にお金よりも愛情が大事であることや同じ間違いを妹ジェシーにしないでと訴え、光の中に旅立つ。

ダニエルと多くの時を共に過ごし、遊び、彼が慕っていた子守スザンヌは、ダニエルが死ぬ瞬間を見守り、最後の言葉を聴いていた。それは、”I wish you were my mother.” 子供が母親に望むことは何であるかを表した言葉である。
・『ジャーニーマン』「破られた掟」

2007年のある日、突然、タイムトラベラーになってしまった新聞記者のダン。サンフランシスコの過去へと使命を持って移動する。自分の使命を正確にはわからないまま、人助けをする。後の歴史の中で、助けた人たちが社会に貢献する人物であると証明される。時の旅をする際の掟は、現代の物を過去においてきてはならないことと、過去の人物に手を下してはいけないことである。そうすると現在に影響がでてくるのである。このエピソードでは、ダンはその原則を破る。

1992年に戻ったダンは、里親から逃げ出したエミリーが誘拐され拉致されそうになる所を助ける。犯人はそのまま逃亡し、次々と犯罪を重ねる。ダンはそのことが許せず、この犯人に手を出してしまう。一方、現代の世界では、ダンの小学生の息子ザックが学校で問題を起こし、家庭に問題があるのではないかと教師から問われる。ダンが戻った2001年では、息子は、生まれたばかり。家に入ると、息子がちょうどむずかっている。思わず抱き上げ、Twinkle, twinkle, little star, How I wonder what you are, I don't know the rest of it. You just go to sleep in bed.と歌ってあやしつける。ベビーベッド脇の赤ちゃんメリーのモビールも、星と月。犯人に手を出した結果、ダンが現在に戻ると、息子ザックは存在せず、代わりに娘が待っていた。息子を取り戻すためにダンは奔走することになる。

・『CSI ニューヨーク』シリーズ4 12話 「ネバーランドの悲劇」 原題は、Happily ever after をもじった Happily never after。邦題タイトルから容易に、大人になることを拒否したピーターパンを、原題からは、幸せに終わるはずのお伽噺がうまくいかなかったことを示唆している。ドラマの内容も、大人にならない大人の話であるだろうと想像できる。

このエピソードの初め、冬の日に邪悪な魔女のあだ名を持つホテル経営者の死体はそのホテルの前で発見される。次に、他の場所で、スクールバスが前の車に追突し、その勢いで、バスの屋根に載っていた死体がすべり落ちてきた。その死体は、素足、ネグリジェをまとい、素肌の胸にはWendy (ピーターパンに登場する子どもの名前) と書かれており、体の傷口には、花がおしこまれていた。その場面での会話。Mはチームリーダーのマック・テイラー、Dは部下のダン・メッサー。

D: Where did she come from?

M バスの屋根を調べる。

D: Got something?

M: The answer to your question.

She slipped off the bus. Where did she fall from?
死体の額に星のシール、胸に Wendy の文字を目にし。

捜査員 : Could be a name.

D: Last name would be nice.

マックがつぶれた花を傷口から取り上げる。

D: Crushed flowers?

M: During the Black Plague, perfume of flowers was stuffed
in the pocket of the body at the burial to mask the smell of
death.

D: That would make this.

pocket full of posies

Ashes, ashes

M: *We fall down*

捜査を進めるうちに、夜中にビルの中にある幼稚園に侵入し、幼児返りを楽しむ集団がいることが判明する。そこでは、foxy という幼児返りをする薬を飲み、幼児に戻った大人たちが 'Ring-a-ring 'o' roses' を歌いながら遊んでいる。ハイになったウエンディを犯そうと拒絶された男がフック船長の鉤爪で彼女を殺し、死体を窓から投げ下ろしたのである。この場面は、ピーターパンが、ウエンディ等を窓から連れ出し飛んでいく場面を真似たものであろう。

・『多重人格シビルの記憶』

この映画は、実話に基づくものである。ジェシカ・ラング扮するウィルバー医師は、恩師でもあり同僚でもある精神科医から female hysteria を起こしている女性シビルの治療を依頼される。何回もの面接を通して、シビルには、多数の人格が入り替わり立ち代り現れることが判明する。その原因を探っていくうちに、シビルが幼いころ、実母から性的にも虐待を受けていたことがわかる。しかし、シビル自身は母親が立派な人だったと主張し、シビルの父親も母親は完璧だったと証言する。ウィルバー医師は辛抱強く原因を探っていく。ついに、シビルに現れる性別や年齢の違う16名の人格は、彼女の成長過程において、別の人格に成りすますことで母親からの虐待に耐えるために現れた人格だとわかる。ウィルバー医師は、催眠療法を用い、それぞれの年代の16人を呼び出す。中核となった人物はビッキーと言う名の18歳の少女。一番年下は、6歳のルーシー。呼び出した人格を、医師は、治療しているシビルの実際の年齢にまで一人ずつ成長させ、一個の人格に統合していく。それには、11年の月日を必要とした。

「バラの花」の唄は、家から出ることを母から禁止されたシビルが6歳の頃、空想の友達を作って家の中で輪になって遊んだ状況で歌われた。家の外で友達を作ることを許されなかったシビルは、空想上の友達を作りあげ、子どもが集まれば手をつなぎ始める遊戯で楽しんでた。

次に幼少時に過ごした故郷にいる父親を訪ねる際にも、家が近くになるにつれて「バラの花」の唄が流れる。

この映画、『多重人格者シビル』は、近親者から幼児期

に虐待を受け、他人になりすますことで自己防衛をした結果、人格が分離する事例を描いたものである。彼女は、どの人格の時にも絵の才能を示したが、作風が全く違っていた。シビルは、催眠療法を受けている際に、一番楽しかった時代は、3歳までだったと語る。

マザーグースの唄そのものや唄の一部の言葉が使われるだけではなく、マザーグースの唄の内容を連想させる映画もある。

・映画『スターダスト』は、マザーグースの唄や唄の言葉は使われていないが、唄の内容やフォークロアを連想させる映画である。縦糸に How many miles to Babylon? を配し、横糸に Shakespeare、マクベスに登場する三人の魔女、ハドリアヌス帝の壁を連想させる「Wall」、種々の歴史上の人物などが登場するファンタジーである。

映画の冒頭、a philosopher once asked, "Are we human because we gaze at the stars? or do we gaze at the stars because we are human?" It is silly. The stars gaze back. 人間と星がお互いに見合っている様子である。I see the moon のもじりであろう。壁に囲まれた村、その名も Wall という村、実は、イギリス（現実の世界）壁の外は、Stormhold という魔女が住み、魔法に使われる品物の市が開催され、王座をめぐる争いで殺された王位継承者たちが浮かばれずに霊として存在する another world。二つの世界を分ける壁には24時間勤務の番人がいる。番人は現実の世界から another world に行く者は停めるが、another world から現実の世界に入ってくるものを停めることはできない。「壁」は、現実の世界に住んでいる者は、another world に出入りできるが、another world の居住者は、現実の世界には入り込めない境界線を表している。

ある日、若者ダNSTONが番人の目をかわして壁を越え、市場で女性と出会う。この女性は、悪い魔女にとらわれた Stormhold を統治する王家の末娘ウーナ。ダNSTONは、彼女から硝子で出来たスノードロップの花を買う。スノードロップの花言葉は、「希望、慰め、逆境の中の希望」で、ダNSTONを魔女から守る力を持っている。ウーナは、お金ではなく、3歳までの記憶か、キスで支払えという。これは、魔法の世界の取引である。二人は魔女の目を盗んで愛し合う。人間の世界に戻って9カ月後、ダNSTONの元に、籠に入った赤ちゃんトリスタンが届けられる。届けたのは、壁の番人。そして、18歳となったトリスタンは、想いを寄せる女性の願いで、壁の向こう側に落ちた流れ星を探しに行く。その流れ星は、Stormhold の王が死の直前に、城の外に投げあげた王位継承権の象徴のルビーの石が星に当たり、地上に落ちてきたのである。壁の向こう側に行くことを番人に阻止されたトリスタンに、父親ダNSTONは、初めて、トリスタンの出生の秘密を明かし、トリスタンを届けた籠に入っていた品物を渡す。魔法から身を守るガラスのスノードロップ、母親からの手紙とそれに巻かれていた黒い蠟燭。それに、母親ウーナを拘束していた鎖。

次の会話は、父と子の会話。Dは父親ダNSTON、Tは息子トリスTAN。

D: This is also in the basket: never opened it and addressed to you.

T: (母親の手紙を読む) My dearest Tristan で始まる手紙には、黒い蝋燭の説明。... I wouldn't keep you in a heart beat. My dearest wishes to meet someday. The fastest way to travel by the candle light. To use it, think of me and only me. I was thinking of you ever for always. Your mother.

トリスTANは、その蝋燭(バビロンキャンドル)の力を借り、星が落ちた場所に瞬時に移動する。と、その場所には、金色の髪的女性イヴェインが横たわっていた。その女性を、イングランドへと連れ帰る途中、魔女に邪魔され、王座をねらっている王位継承者の一人にも襲われ、自ら Shakespeare (槍を揺らす)と名乗る空を飛ぶ海賊船に乗る海賊に助けられ、剣術やダンスなど大人になるための訓練を受ける。海賊は、雷から電気を収集したファラディの真似をし、集めた電気を売りさばく商売をしている。自らを古の大文豪の名前をいただいたと豪語する海族の船長が、イヴェインに I know what you are.と声をかける場面では、「きらきら星」を連想させる。

『マクベス』に登場する 魔女三人には、名前がないが、この映画の魔女にはモルモ、エンピューザ、ラミアと言う名前があり、若さと美貌の維持という人間が持つ欲望を持っている。彼女たちは、流れ星の精の女性が光輝いている時の心臓を食べると若さと永遠の命を持つことができるので、執拗に二人を追いかける。というのも、彼女たちは、流れ星を400年の間待ち続けていたのである。その彼女たちも「バビロンキャンドル」を持っていたが、200年前に使いきってしまったため、今回は、動物を切り裂き、その内臓の様子から、流れ星の位置を占っていた。

最後は、流れ星の女性(金星と判明)とトリスTANは、結ばれる。また、トリスTANの生母ウーナが Stormhold の王の娘だったため、トリスTANと流れ星イヴェインは、その王国を引き継ぎ、以後80年にわたり統治する。

この映画は、古いマザーグースの唄や、北方からの侵略を受けたイングランドやイギリスの歴史、若者の成長には旅が不可欠というフォークロアにある要素を連想させ、それらの古い知恵が映画の筋に織り込まれている。映画そのものもファンタジーとして楽しむことができるが、英語圏の文化や歴史の知識があると更に楽しむことができる映画である。

過去が紐解く現在の謎

マザーグースは、人の子供時代の精神状態に大いに影響を与えている。唄そのものばかりでなく、歌ってくれた人物や、歌われた環境からも「子供」は大きな影響を受けている。人は、現在の自我を見つめる際に自分自身の過去、特に幼児期にその解く鍵を持っていると言えよう。

子どもがこの世に生を受け、始めて耳にする子守唄。親の思いが込められた子守唄が登場したリンリー警部の一話でも、母親と子供の強い絆が強調されている。リンリー警部自身は、自分の若い頃の体験から、父親になる準備ができず、家長として家族を支える自信がない。妻の this is our family not yours という言葉、シェリーの母親としてわずかな時間に経験した赤ん坊との接触が素晴らしいと語る様子、殺害されたモラグは息子を金銭目当てで売り、母性(maternal instinct)の欠けた人物だとみなされているが、息子ダニエルは、警部との尋問の時、自分を捨てたことで怒りを感じていた母親について次のように述べている。Lはリンリー警部、Dはダニエル。

L: She is a woman who gave you up for money. She didn't care what would happen to you.

D: You don't know that she must've been desperate. Maybe she's been sorry everyday of her life. If I could've seen her, talked to her, we could've... I've never got a chance. You have no right to judge her.

ダニエルが、決して会うこともなく、抱かれた記憶すらない母親を弁護するのである。また、警部の部下の一人、ピリーは、自分の母親がこの事件を評して any mother would kill to defend the young. と子どもを守るために母親ならば人殺しもいとわないと母性の強さを擁護している。

『多重人格シビル』で、シビルは、一番幸せを感じていた時期は、3歳までと言い、『スターダスト』で、魔女の奴隷となっているウーナが「3歳までの記憶と交換」と申し出ているように、人は、3歳位までが人生の中で一番幸せな時期で価値のある時期かもしれない。その時期には、子守唄を何回も耳にするであろう。また、6歳位になると、子供達同士で集まると、'Ring-a-ring 'o' roses'で、手をつなぎ、友人関係が生まれ、社会性を培っていく様が『多重人格シビル』に現れている。親と子、人間と人間の不思議な縁をマザーグースがつかないでいるようである。

参考文献

- 1) Iona and Peter Opie: *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*, Oxford University Press, 1951.
- 2) Iona and Peter Opie: *The Puffin Book of Nursery Rhymes*, Puffin Books, 1963.
- 3) William S. and Ceil Barin-Gould: *The Annotated Mother Goose*, Meridian, 1962.
- 4) 平野敬一: 『マザー・グースの世界』Elec Sensho, 1974.
- 5) 平野敬一: 『マザー・グースの唄』中公新書, 1972.
- 6) 渡辺茂編著: 『マザー・グース事典』北星堂書店, 1986.
- 7) 吉竹迪夫: 『まぎー・ぐーす(上・下)』中教出版, 1977.
- 8) 脇 明子: 『魔法ファンタジーの世界』岩波新書, 2006.
- 9) 夏目康子: 『マザー・グースと絵本の世界』岩崎美術社, 1999.

(2009年10月9日 受理)